

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393600071		
法人名	医療法人こころ勝北診療所		
事業所名	グループホーム出雲岬		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2368-12		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 21 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393600071-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染の心配があり交流会の計画が行えませんでした。施設内で出来る季節に合った行事を計画し、利用者の方と職員と一緒に楽しんで過ごせる時間を持っています。感染が落ち着いている時には、外出行事も行っています。新型コロナウイルス感染拡大傾向にある時には面会制限を行った為、毎月のお便りでご家族にも日々の様子が伝わるようにと思っています。1年間の写真をまとめたDVDを作成しご家族の方にお渡ししています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外気浴や近隣散歩・ドライブ、バーベキュー、文化祭の作品展示・見学、家族面会等、コロナ対策を講じながら、出来る限りのマンパワーを確保し、職員一丸となって見守り重視の支援に取り組んでいる。利用者もストレスなく落ち着いており、充実した日常が伺える。また、24時間365日体制で協力医(母体)と密に連携し、最適な医療を提供すると共に、休憩室やスロープの設置など、職員の意見や提案を取り入れながら働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し共有できています。理念に沿った対応ができるように心がけています。	事務所に理念を掲示し、職員に周知すると共に、ミーティングの中で振り返っている。また、理念に基づいた年・月目標を立て、ケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の心配がある為、地域との交流は行えていない。	コロナ対策を講じた上で、地域の秋の文化祭に作品を展示したり、見学に行ったりしている。小学校や保育園の運動会の観覧や、同法人のデイサービスとの交流は制限等あり、自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大の心配がある為、地域との交流は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策を行いながら、行政・老人会・民生委員・ご家族を交えて利用者様の状態・行事報告・ご家族からの要望・行政や町内からの助言などを意見交換している。	コロナの状況を見ながら、行政や家族等に声かけて開催したり、書面会議で行ったりしている。食中毒やノロの注意喚起、コロナワクチンに関する連絡事項等、貰った情報や意見等は事業所内で共有し、サービス向上に向けて実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただきホームの実情を理解していただいている。提出物などは役場を持って行き担当者の方に直接渡すようにしている。不明な事や困りごと相談するようにしている。	日頃から積極的に電話したり、出向いたりして連携を図っている。また、運営推進会議での情報提供やメールによる事故報告など、互いに情報共有しながら良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内でも研修を行い身体拘束をしない取り組みを行っている。玄関や窓は開けて開放的な空間を作るように心がけている。	毎月、ミーティングの中で身体拘束について話し合ったり、マニュアルを確認している。また、年一回、同法人のデイサービスと合同で内部研修を行っている。外部研修はコロナ禍なので控えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で研修を行い虐待について考える機会を設け、職員が共通認識が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方がおり、行政とも連絡を取りながら制度の利用を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は必ず管理者が行い文章と口頭での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき要望など意見を求めている。参加が出来ないご家族にも面会時など要望をお聞きするようにしている。	運営推進会議や面会時に家族から労いの言葉を貰っている。利用者は日常的に意見等を汲み取っており、誕生日のリクエストメニュー等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員アンケートで業務の改善が必要な所は話しあい改善するようにしている。代表者も困りごとがないか訪問時に聞いてくれる。	半年に一回、管理者と面談しており、職員には事前にアンケートを取っている。また、ミーティング前に職員から相談されることもある。出た意見や提案は、南口のスロープや休憩室、防災用品の収納庫の設置等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすいように整備に努めている。職員の休暇希望を優先してシフトを作成したり資格取得が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング時に研修を行っている。今年度は外部研修に参加できていないが、研修に参加できる時にはシフト調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催での管理者会議があり情報交換を行っている。同法人のデイサービスとは合同でミーティングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や利用者様から困っている事や希望をお聞きし馴染みの関係になれるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時にご家族の困りごとについてお聞きしグループホームでの生活をどのように送って欲しいか要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様より、ご家族の入所への要望が強い事もありご家族の意思を優先して入所の受け入れを行う事が多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている能力を発揮していただき、調理、縫物、洗濯物畳みなどの家事作業と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子をお伝えするようにしている。また体調の変化がある時にはその都度連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会時にはゆっくり話ができるように支援をしている。馴染みの場所へ出かける事もある。	コロナ対策を講じた上で、家族や友人と窓越しまたは玄関で会話したり、町内の家の近くをドライブしたり、新しくなった駅の公舎を観に行ったりしている。コロナが落ち着いたら、馴染みの人達を呼んで広い駐車場でマルシェを開きたい気持ちがある。	馴染みの関係を継続する支援の一つとして、マルシェの実現に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操などを行い一緒に過ごす時間が持てるように支援している。利用者様の相性を把握し職員間で情報の共有を行い、職員が利用者の方の間を取り持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や他の事業所に移られて困らないように必要な情報提供を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から利用者様の思いをくみ取るようにしている。利用者様にご自分で要望を表現できない方にはご家族に相談したり、以前の情報から検討している。	日常会話の中から、利用者の思いや暮らしの希望を把握している。把握が難しい時は、家族に相談したり、フェイスシートを見返したりして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報提供にあった事や、ご家族や利用者様との話しの中で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムが把握できるように努め、出来る事はご自分でしていただけるようにサポートしている。ご自分のペースがある方にはさりげなく声かけをするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族に意向・意見を求めている。毎月のミーティングで利用者様の状態を職員全員で確認するようにしている。	ミーティングの時に担当職員から意見等を聴取し、それを基に管理者がモニタリング(半年に一回)を行っている。体調等に変化があればその都度、対応している。家族や主治医の意見や提案も積極的にケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はバイタル・食事・水分・排泄や行動記録だけではなく、会話なども記録するようにしている。職員間で情報共有が行えるように申し送りでも状態報告を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況によっては病院受診や買い物など必要な支援は柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大の心配があり地域との交流は行えていないが、地域の文化祭への作品出品、老人会から花の苗をいただく事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望の主治医の診察を受けている。必要に応じ受診の介助も行っている。定期的に病状をご家族に連絡するようにしている。	かかりつけ医は協力医であり、24時間365日対応・連絡できる体制が整っている。他科への受診対応は事業所で行っているが、状況により家族に付き添いを頼むこともある。歯科は必要時に訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が対応してくれており、日頃の健康管理や医療面での相談、助言を受けている。職員も相談しやすい関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には速やかに利用者様の情報提供を行うようにしている。また退院後の生活がスムーズにできるように入院中も面会に行ったり、退院時にも情報提供をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・看取りについて説明を行っている。定期的に看取り介護について確認を行っている。ご本人やご家族の希望を尊重しながら支援していきたい。	入所時、重度化した場合の対応や看取り支援について説明し、事前確認書を交わしている。看取りになった場合は、主治医が家族に説明し、同意書を交わしている。看取りは行う方針であるが、医療処置が必要な場合はできない旨を家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網・マニュアルの整備を行い周知している。急変時には医師や看護師の指導を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染拡大の心配があり、地域の方に参加していただいていた避難訓練は行っていない。施設内では、夜間を想定した避難訓練や災害時の対策について話し合いを行っている。	年2回、昼夜想定の下、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、地震発生時の避難場所についても話し合っている。災害があればいつでも地域の人がサポートしてくれる体制が出来ている。水やレトルト食品(2～3日分)を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について研修を通し言葉がけなど注意している。	毎月、ミーティングの中で馴れ合いにならない様、周知している。また、年1回、接遇研修を行っており、否定しない言葉かけや利用者の尊厳やプライバシーに配慮した対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から利用者が自己決定できるようにいろいろな選択肢を提案している。自己決定が難しい方は2択などで選んでいただくようにしている。職員が誘導している部分があるかもしれない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を優先した支援を心がけている。利用者様と一緒に行う家事作業などは利用者様のペースに合わせて行っているが、入浴やトイレ介助などは職員の都合で動いている事もあるかもしれない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で用意できる方には、入浴前に着たい服を選んでいただくようにしている。訪問散髪に来ていただき、希望の髪型になるように利用者様が美容師に話しをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器の片付けなど出来る事は声掛けをしながら一緒に行っている。食べたい物などがあれば、希望を聞いて提供するようにしている。	誕生日に利用者が食べたい物を提供したり、季節の物を取り入れたり、バイキング形式にしたりして、食事が楽しくなるよう工夫している。また、皮むきやお膳拭き等、利用者の力に応じた食事支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行い体調をみながら調節を行っている。嚥下機能の低下がある方にはトロミ剤を使用し安心して食事ができるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。まずはご自分で行っていただき出来ない部分を職員が声掛けや介助するようにしている。夜間に義歯洗浄剤を使用する方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄の状況を勤務者が把握できるようにしている。日中はできるだけトイレでの排泄ができるように誘導している。	日中はトイレ誘導、夜間は各利用者の状態・状況に合わせて支援している。入浴前にトイレに行く習慣を身に付けることで、パンツ内への便失禁が減るなど、自立排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりと行い、牛乳やヨーグルトを摂取するようにして排泄状況の把握を行っている。歩行練習などで身体を動かす事も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴予定はありますが本人のペースで入浴が出来るように支援しています。見守りを中心にしながら出来ない部分の介助をしながら支援している。	週3回の入浴を基本としているが、利用者が「毎日入浴したい」と希望すれば対応可能である。便失禁時は個々に対応している。また、入浴が楽しくなる様、皆で足湯をしたり、柚子や菖蒲、ミカン湯を提供したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明かりなど入眠がスムーズにできるように調節している。眠れない時にはホールで過ごしていただき自然な睡眠が出来るようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から新しく処方される薬についての説明があり、申し送り・記録等に記載し職員全員に伝わるようにしている。また状態の変化があった時には主治医へ相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野の仕事など声かけをしながら一緒に行っている。男性でも野菜の下ごしらえをしたり、洗濯物をたたんだり参加する事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時には施設の周辺を散歩する事も出来る。季節を感じれるような行事を計画して行っているが、新型コロナウイルス感染の心配があり外出の頻度が減っている。	外気浴やバーベキュー、草抜き、散歩など、コロナ対策を講じた上で行っている。家族と一緒に外出・外食する機会や同法人のデイサービスとの交流などは自粛している。職員の見守りのもと、帰宅願望のある人は庭先に出て、ストレス解消している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を所持している方がいる。嗜好品の買い物や依頼され支援する事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡がある時には柔軟に対応している。年賀状など季節の節目にはご家族に葉書を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるように毎月、壁画を作成しホールに飾ったり、行事を行った時の写真を張り出すようにしている。テレビの音や照明の光、ホールや居室の室温・湿度に注意している。	ホールに行事写真や便りを掲示したり、観葉植物を配置することで、季節を感じて貰っている。また、温度・湿度を適切に管理すると共に、ホール全体の空気を清浄に保つために空気清浄機を設置するなど、利用者が快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が同じように機能しているため生活スペースが限られる。座る位置など配慮し集団や個別で過ごせるように、またホールに季節が感じられる物を飾り過ごす時間が楽しいものになるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスの位置など利用者様やご家族と相談し決めていたが、転倒の危険がある方などは職員が配置を決めている。家族の写真を飾ったりしている。	家族写真を持ち込んだり、利用者が作成したぬり絵カレンダーを掲示したり、使い慣れた化粧品やファンデーションを持ってきたりするなど、個々に居心地よく過ごせる様に配慮している。また、各部屋の動線を確保し、転倒事故防止に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札には名前も表示してあるが馴染みのある果物の絵を使用する事で自室と認識できている。シルバーカーや杖を置く位置にも工夫し安全に移動が出来るように支援している。		